



ぎふ国際協力大使からの便り

職種 再生可能・省エネルギー 北住 基 (69歳)

岐阜県中津川市在住

ナマステ（こんにちは）。今日は、私の略歴についてお話ししたいと思います。自分の60歳代は、持っている技術知識を活かしながら、海外でのボランティア活動がしたいとの思いがありました。電機メーカーを定年退職した後、2011年9月から南大洋州のサモアへ2年2ヶ月間、2015年3月からネパールへ2年間、そして2018年6月から南米のガイアナに6ヶ月間、JICAシニアボランティアとして赴きました。そして2020年の1月から、2回目のネパールに、シニア海外協力隊員として、赴きました。ネパールでは、一回目と同様、ネパール科学技術院という国立の研究所にて、太陽光発電を指導していく予定でしたが、世界的な新型コロナウイルス流行のため、赴任2カ月半で避難一時帰国ということになり、現在は再赴任に向けて日本で待機しているところです。



撮影地：ラリトプール群クマルタール
ネパール科学技術院の建物



撮影地：ラリトプール群プルチョーク
2015年の地震で半壊した消防署

最初にネパールに赴いた時は、到着1か月後に、大地震がありました。その時も避難一時帰国がありましたが、1ヶ月半後には、ネパールに戻ることができました。地震に続き、インド国境の閉鎖があり、輸入に頼っているガソリンやLPガスが不足する事態となりました。私の住んでいる首都カトマンズに隣接するプルチョークという地域では、1日12時間を超える停電、水不足、炊事や暖房用の燃料不足などが起こり、ボランティア活動や生活が大変な時期がありました。

今回ネパールに赴いた時は、ほとんど停電もなく、水や燃料も十分にあり、ネパールの人々の生活にもゆとりを感じていました。今度は、ボランティア活動に専念できると思っていた矢先の、滞在2カ月半での避難一時帰国でした。現在は、配属先の関係者とは、今後の活動内容についてある程度話し合っていますので、日本でできる調査活動などは行っていますが、1日も早い職場復帰を願っています。再び赴任した時は、ネパールでの新しい経験や印象などを、ご報告したいと思います。

以上